



「宿根カスミソウ」晩生品種を用いた二番花の開花調節の実際



花 卉

中原 英幸
下島宮農指導センター
080-1729-1629

現在、カスミソウの定植も始まり天草では、一般的に10月から6月まで出荷がなされています。主に8月定植したものは、切戻しを行い4月から母の日出荷を行います。

しかし、冬季の短日低温条件下では、株の生育が遅く、二番花を母の日出荷に間に合わない場合もあるため、加温電照などによる開花調節技術が必要となってきます。

今回は、JAうき管内の開花調節の実際をご紹介します。

隣町ということで、気象条件もほぼ同じということもあり、天草で二番花開花調節の参考になればと思います。

○「開花調節の実際」

宇城管内では、無電照栽培の場合、ペール系で12月下旬、アルタイルで12月中旬に切戻しを行うと、二番花を母の日前に出荷することができます。年明けに切戻す場合は、1月末までに切戻し、5℃加温のもと二重被覆による蒸し込みと電照を組み合わせます。

晩生品種のアルタイルLGは、切戻し後、冬季の生育が緩慢で、無加温無電照下では栄養成長が続き、開花時には、草丈が2m近くになることも珍しくありません。このため、一番花のみ収穫し、ペール系品種に植え替えるのが一般的ですが、加温電照と蒸し込みを組み合わせることで、母の日前に出荷することが可能です。平成23年12月17日に切戻し、トンネル被覆による蒸し込みの上、年明けの1月15日から電照を行ったところ、4月下旬から採花が可能となり、約半数が母の日の前に出荷できました。

また、無電照栽培の場合は、2月中旬に切戻し、母の日後の5～6月にかけて出荷が行われた圃場もありました。

電照時間は、終夜電照が最も効果が高いですが、実用的には、4時間程度の深夜電照でよいとされています。

光源には、白熱電球を用います。

なお、栽培終了時まで電照すると、頂花部の節間長が伸長し、草姿がくずれることから、電照の終了時期は発蕾時までとするのが一般的です。

23年産宇城管内作付け事例

品種名	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
アルタイル LG	◎				x	☆電照	★消灯				
アルタイル	◎				x	☆	★				
マリペール	◎				x						

宇城地域振興局農業普及振興課資料より



購買者が求める子牛づくり



畜 産

平山 静利
下島宮農指導センター
080-1729-1638

えづけ飼料の給与に関連した子牛のほ育期の管理ポイント

- ① えづけ飼料は生後1週間以内に給与開始しましょう。
- ② 3ヶ月齢までは、えづけ飼料：粗飼料＝9：1の割合で混ぜて給与しましょう。
- ③ 飼槽が空になったら、②の混ぜた餌を追加しましょう。
- ④ 2～3ヶ月齢で1～1.5kgたべるようになってから離乳しましょう。
- ⑤ 消化の良い、柔らかい粗飼料を給与しましょう。
- ⑥ 常に新鮮な水を給与しましょう。
- ⑦ 子牛にストレスがかからない環境づくりをしましょう。
- ⑧ 食べ残しは必ず取り除きましょう。

このような留意点に注意し、ほ育期の管理を手始めに、下記のような理想的な子牛を作りましょう。

- 骨格・筋肉がしっかりと発育している（特に胸囲が発育している）
- 月齢に応じた発育・伸びがある
- 余計な脂肪がついておらず、ゆとりがある
- 出荷前はしっかり手入れがされている

※えづけ飼料とは・・・生後～3ヶ月齢までの子牛は育用濃厚飼料のことです。

ばくばくモーレット、モーレット等があります。

※粗飼料：チモシー・オーツヘイ等。

（特にチモシーは餌付け時に食べさせて与えておくと下痢させる心配はないと思います。）



抑制かぼちゃ今後の管理



野菜

小林 優介
上島営農指導センター
080-1729-1635

1. 肥培管理

大玉果を生産するには約28枚程度葉数が必要となります。

追肥は、着果節位の雌花が開花直前にを行い、2回目は着果確認後施用します。

追肥位置は、株元及び着果節周辺に行います。

2. 交配

着果位置は、1本仕立ての場合は10～15節に着果させます。2本仕立てでは、10節以降に着果させます。下段着果は、小玉につながるの株元周辺の果実は必ず摘果しましょう。交配の時間は、授粉率を高めるために午前9時頃までに終わります。

3. 整枝・摘果

1番果がソフトボール程度に肥大したら、「1蔓1果」に摘果し、シートの設置を行います。また、日焼け防止の為、新聞紙や藁などで日よけをします。

着果節位から本葉15～20枚以上を残し早めに摘芯します。また、着果節位以降の側枝は、原則取り除くが先端の2～3本は必ず残します。

4. 病害虫防除

害虫

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象害虫
トリガード液剤	1000倍	収穫前日	3回	ハモグリバエ
カスケード乳剤	2000倍	収穫前日	3回	ハモグリバエ
アフアーム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	スリップス
モスピラン水溶剤	4000倍	収穫前日	2回	アブラムシ

病害

着果時期又は朝夕涼しくなってくるとうどんこ病の発生が見えはじめます。

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
トリフミン水和剤	3000～5000倍	収穫前日	5回	うどんこ病
ストロビーフロアブル	3000倍	収穫前日	3回	うどんこ病・べと病
イオウフロアブル	500倍	収穫前日	制限なし	うどんこ病
ダコニール1000	1000倍	収穫7日前	3回	うどんこ病・べと病
Zボルドー	500倍	収穫前日	制限なし	べと病・疫病

※うどんこ病が発生した場合は、薬量を多めにたっぷり洗い流すように散布してください。

※日中の高温時（30℃以上になる時）には薬剤の散布を避けてください

4. 収穫

交配後、45日（積算温度900℃）程度を目安に収穫します。

交配日が幅広い所については、分けて収穫を行います。

収穫後、生り口を短く切り返し、1週間程度陰干し乾燥させた後、布でよく拭きあげます。



10月の柑橘園管理



果樹

木蜜 栄次
上島営農指導センター
080-1759-0088

温州みかんの収穫にともない、農薬の使用については収穫前日数、使用回数等の確認をお願いします。

1. 病害虫防除

収穫を行う品目については、事前に貯蔵病害対策をお願いします。

対象病害虫	薬剤名	希釈回数	収穫前日数		使用回数	備考
			温州	中晩柑		
貯蔵病害	ベフラン液剤25	2,000倍	前日		温：3回、中：2回	混用
	ベンレート水和剤	4,000倍	前日	7日前	4回まで	
	ベフトップジンフロアブル	1,500倍	7日前	前日	温：3回、中：2回	
ハダニ類	スターマイト（F）	2,000倍	7日前		1回	発生時

注）ベフトップジンFとベフラン液は合わせて2回までとなります。

2. 温州みかんの着色促進及び浮皮軽減

1回目（2～3分着色時）・2回目（5～6分着色時）
サルファーソル400倍 加用 ジューシーカル800倍

3. 河内晩柑の落果防止対策

（1～2分着色時）

マテックEW・・・2,000倍

4. 葉面散布

収穫後の樹勢回復を目的に行います。

収穫後	アミノジューシー・N14 又は 尿素	500倍
-----	--------------------	------

5. 秋芽の芽かき

温州みかん・中晩柑問わず秋芽の発生がある園地では、アブラムシ、ハマキ等の害虫発生原因や芽が十分に発育できないので芽かきを行いましょう。

6. 土壌水分管理

夏季に比べて今後の蒸散量は減っていきますので、天候に応じてかん水をお願いします。

早生・中熟・普通温州みかん	土壌を乾燥させ増糖効果を狙います。（降雨を入れない対策）
清見・ポンカン	土壌をやや乾燥させ増糖効果を狙います。
デコポン・河内晩柑・甘夏など	かん水を実施し果実肥大を促進させます。